

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日吉 A棟		
所在地	北海道苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	令和元年10月30日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivvosvoCd=0173600487-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivvosvoCd=0173600487-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活性させ暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気感を五感で感じ取れるよう心掛けています。安心した暮らしを提供できる様ホーム内外の研修に積極的に参加し職員のスキルアップに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム日吉」は、最寄り駅やバス停、商業・公共施設などからほど近い距離に立地している。建物は平屋建て2ユニットが玄関を中心に左右につながり、合同行事や緊急時の応援などスムーズに行き来ができ、また、バリアフリーと床暖房の広々とした開放的な空間で、居間に和室を設け畳敷きが懐かしさを醸し出している。両管理者は理念を形骸化させず支援の拠り所として運営に当たる姿勢を保持し、職員を牽引しながら良好なチーム作りを行っている。本人が心地よいとする、また、リロケーションダメージや症状の緩和につながる生活支援マップが工夫されている。馴染みの場所や人とのつながり、趣味や特技の発揮、買い物、外出、気ままに過ごすなど、本人の利用開始前の環境やペースの継続性、大切な事柄との関係性を断ち切らない支援に尽力している。職員は「本人がどうして欲しいか考えている」「その人の願いを聞き入れたい」「家族の心配している事を受け入れ感じ取りながら共に助け合いたい」と述べ、職員の想いが支援の頑張り結びついている。暮らしのためのケアマネジメント、研修体制、口腔ケアなども特筆される。地域に溶け込み様々な社会資源と連携や協力関係を築きながら一人ひとりの利用者の生活の幅を広げている。地域密着型サービスの本質を追求し、自分らしさを保ちながら自由で心豊かな暮らしを支え実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の立場に立ちケア理念の元に毎日の目標を持ち共有し実践に繋げている	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだケア理念を掲げ、パンフレット、ユニット玄関に明示している。基本支援は理念に沿って行う事としており、利用者カンファレンスで振り返りを行い、支援のあり方を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のゴミ拾いにはほぼ毎回参加し交流している	町内会主催の運動会・ハイキング・盆踊り、市の文化祭や小学校の学習発表会、包括支援センター主催の運動会、音とリズムと笑顔の集い、教会の秋のふれあい会などへ参加している。ボランティアの受け入れや夏祭りに地域の方を招待している。地域交流の基盤を作り、積極的な取り組みに至っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内ハイキング等で顔見知りになり、認知症の行動、対応、支援方法を地域の人々に向け活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や避難訓練、災害時の対応の仕方等報告し町内会、地域包括支援センター、御家族に意見して頂き活かしている	会議案内、議事録を関係者へ送付し、テーマを設定し運営している。近々では、災害対策、困難事例等の報告を行い、意見やアドバイスを受けている。課題を協議し、対策や結果を纏め、運営に活かしている。家族の出席率が高い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂き助言、相談しサービスの取り組みを伝えている	市の担当者へは、事業所の考え方や実態を知ってもらえるよう情報提供や相談を行い、協力関係を築いている。利用者の安全に配慮した居室内の低床への整備や本人に合う安定性のある環境、暮らし方について意見を仰ぎ、サービスに活かした。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを強化し玄関の施錠しない取組みを行っている定期的に不適切ケア、身体拘束防止委員会を開催し議事録を回覧し周知している 定期的に全体研修も行い取り組んでいる	「身体拘束等マニュアル」を整備し、毎月「身体拘束適正化の取組実施状況確認表」を法人本部に提出している。不適切ケア防止委員会は定期的に開催され、支援の実際を掘り下げた利用者アセスメント・モニタリングの検討を加え行われている。これらに係る内部・外部研修を実施している。玄関は夜間帯のみ施錠し、利用者の状態変化によるリスクについて家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に不適切なケアについて会議し、危険な介助、介入には都度声掛けしている		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は御家族が相談に来られ必要に応じて支援する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している、改正時や変更時には都度同意書を依頼し理解して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟で意見箱を設置している。御家族が参加された行事ではアンケートを頂き反映している	利用者本人から聞き取った意向を関係者と相談しながら趣味ごとの外出支援としてサービスに反映させた事例がある。家族向けに行事ごとのアンケートを実施しており、出された意見は行事反省会で次年度に向け検討されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議等で意見聞き反映している	管理者が年に1~2回、職員の個別面談を実施している。カンファレンス意見交換による一例であるが、理念に則った支援を行うために、勤務時間の前倒しや休憩時間を変更するなどして見守りを強化し、利用者の暮らしを支えるための発言、提案があり運営に反映させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況に応じた職場環境、整備に取り組んでいるが人員不足な状況が続く職員に負担を感じさせていた時期がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加しスキルアップに繋がるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修会に参加しグループワーク等で他事業所との意見、情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に御家族、本人の要望を面談等で聞き安心して暮らして頂ける様な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談等で不安、要望に耳を傾け円滑関係を築ける様取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、本人の希望や必要性を考慮しボランティアの活用等検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ち出来る事には関わって頂き食事作り、盛り付け、茶碗拭き、掃除、洗濯物たたみ等を行って行っている。自ら進んで手伝われている様子も見られている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の御家族対応や行事の参加のお誘い等でホームに来られ本人と過ごされる時間多く持てるよう取り組んでいる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時から関わっているホームヘルパーが訪問されており関係性が継続するよう支援している	家族の協力を得て利用開始前からの美容室へ継続して通っている利用者がいる。また、墓参りや自宅外泊などスムーズな外出ができるための準備や家族の甲事に職員が利用者を送り一緒に参列しサポートを行った。馴染みの方と一緒に好きな趣味ごとの外出が楽しめるよう関係者と協力し場面を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様支援し、入居者同士の関係性を考慮しレクリエーション等でトラブルにならない様都度介入している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も御家族が花壇の手入れ等してくださり、これまでの関係性が続いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝の散歩を希望されている利用者の生活リズムを変えないよう取り組んでいる	職員は一人ひとりの思いや希望、意向について関心をはらっている。意思の疎通が可能な場合はその都度聞き取りし、難しい場合は本人の表情や家族に聞くなどして確認し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	花札、ストーブ作りやフェルトでの作品作り等の趣味をホームでも楽しめるよう取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事はしてもらい、自身がどこで過ごしていたのか理解し穏やかな気持ちで過ごされるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議で一人一人の状況確認し都度問題点を抽出し検討している プラン変更時には本人とご家族の意向を伺い状況に合ったプラン作成に取り組んでいる	センター方式を活用したケアマネジメントに取り組み、介護計画作成前に本人・家族の意向を確認している。毎月モニタリングを含めた利用者カンファレンスで状況確認を行い、本人の話しや様子など職員の気づきを情報交換し、職員が積み上げている日々の取り組みを検証しながら今後のより良い介護計画に向けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りや業務日誌等で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	文化祭見学や地域包括支援センターのイベント等入居者が楽しめるような事には積極的に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加、ボランティアの訪問等楽しめられている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問看護からの助言 協力医(往診)には相談、助言の出来る関係性が出来ている 御家族での受診が難しい時にはホーム対応も行っている	月1回の内科医による訪問診療、月2回の訪問看護、必要時の歯科・皮膚科の往診体制を整備している。毎月、職員はブラッシングや口腔体操等の歯科衛生士の口腔指導を受け利用者支援に活かしている。受診記録は「医療・受診・経過表」に記載している。	

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前入院していた入居者の現状を伝え相談し助言が受けられるような関係性を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者やソーシャルワーカーに情報提供してもらいリハビリが必要な場合はホームで行える方法の指示を受け認知症状が進まない様早期退院に繋がるような関係性を築いている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医のDrとご家族の話し合いとホームでの取り組み方針を十分に話し理解頂き取り組んでいる	「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を契約時に説明し同意を得ている。医療度や経口摂取の状況等、状態変化に応じ関係者間で話し合いを持ち、合意形成し段階を踏んでいる。医師の意見を仰ぎつつ利用者本人に負担をかけない重度化対応、移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、急変時や事故発生時の管理者への連絡は必須であり緊急ファイルを準備している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、津波訓練を行っている 地域住民のかたも緊急連絡網にも登録して頂いている	今年3月の地震・火災想定避難訓練では消防設備業者に装置作動の説明を得るなど臨場時の対応方法を学んだ。10月の津波想定では実際に避難先へ移動する訓練を避難経路の確認を含め実施した。災害備蓄品を確保している。	津波災害時において利用者を安全に避難先まで避難誘導する現実的な方法論について、事業所から課題として挙げられている。今後、市の担当者、運営推進会等で協議する意向であるので実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いが伝えられるような声掛けを意識しているが親しみのある声掛けで不適切な言動が見られた時にはお互い注意している	職員は法人のeラーニング研修で接遇を学んでいる。利用者の尊厳を重視しながら、静止するような声かけをしない事を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出希望等本人の要望を聞き対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先にし出来るだけ自分のペースで過ごして頂ける様取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整容出来る方はしてもらい出来ない方は支援し対応している 季節に合った服装を心がけ本人にも選んで頂いている		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや形態盛り付けや見た目の盛り付けを意識し提供している 食事の準備や片づけにも関わって頂いている	献立と食材が配達されるが、外食やパンの日、行事で釜飯や寿司の出前、出張蕎麦店が来るなど利用者が楽しめる機会が多い。桜餅やべこ餅など一緒におやつ作りをしている。職員は介助しながら同じテーブルで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は職員間で周知し食事量の少ない方には好みの味付けやメニューや形態を工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に違う支援を行っている 出来る事は行って頂き仕上げの必要な方は支援し頬の動きの固い方にはマッサージを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツにパット 夜間は紙パンツにパットと個々に合った対応で自立に向けた対応に取り組んでいる	パソコンの個別記録管理に利用者ごと時間や状況を入力しており、時間経過を見ながら必要に応じて声かけしトイレへ誘っている。適度に排便があるかをメモに残し、個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物や加工品等で対応しているが、個々に処方されている便秘薬を活用し対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間ほぼ決まっているが、無理強いせず曜日変更等で対応し週2回は入浴されている	ユニットにより午前と午後に分け、好みの湯加減で全員が湯船に浸かって入浴ができています。入浴の苦手な利用者にも本人のタイミングで入れるよう声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ソファーで横になりたいと希望される方は介助し休んで頂いている。就寝時は自分のペースで居室に戻られる方と誘導し就寝される方と様々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者担当者が把握し、変更があった場合も周知している。服薬ファイルを作成している。服薬確認表を作成し飲み忘れのないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩習慣のある方の対応 花札の好きな方の他入居者との介入等行い楽しみを持ち気分転換が出来るよう支援している		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望添い対応している 町内会のイベントにも参加し町内の方々との協力を得ている	日々の散歩や事業所のベンチで外気浴をしている。いちご狩りや名所への花見、紅葉見物に錦大沼や金太郎池へ出かけている。個別の買い物や外出を兼ねた外食へ出る機会を設けている。家族と外泊や墓参りに行く利用者もいる。町内会のハイキングや市民文化祭、介護予防教室の運動会へ参加するなど、外出が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自身で持っている事を希望されている方は御家族にお話しし理解と協力頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から電話があり本人状況をお話した後はご本人と変わる楽しく会話して頂くよう取り組んでいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は大きな問題はないが、時折くしゃみの音や痰を切る音を不快そうにされている方が居る時は都度介入している 季節に合った飾り付けを心掛けている	建物全体が広くゆったりとした造りで開放感がある。玄関に行事予定を載せたお知らせ板を設置している。床暖房の暖かな居間でゲームやテレビ、会話を楽しんでいる。畳のスペースもあり、座ってお茶を飲み自由に過ごしている。広い廊下を歩行訓練に利用して独歩で外出ができる事を目標に取り組んだ事例がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではソファで横になり時代劇を楽しんだりホール食席でおしゃべりしたりレクでカルタをしたりする環境の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に住み慣れた家の家財を活かし居室作りを行い居心地の良い環境作りをに対応している	洗面化粧台が備えられている居室は、利用者ごと自由に工夫してテレビ、椅子、観葉植物、カレンダー、家族の写真、趣味のジグソーパズルを配置しており、居心地よく暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、解る事はしてもらい出来ない事への不安、混乱のない様支援し歩行不安定な入居者の介入をし危険のない生活が送れるよう工夫している		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日吉 B棟		
所在地	北海道苫小牧市日吉町3丁目1番9号		
自己評価作成日	令和元年10月30日	評価結果市町村受理日	令和1年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活性化させ暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気感を五感で感じ取れるよう心掛けています。安心した暮らしを提供できる様ホーム内外の研修に積極的に参加し職員のスキルアップに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivvosvoCd=0173600487-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivvosvoCd=0173600487-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示いつでも目につくようにしている。毎日のケア目標を理念を念頭に置き立てている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や学校の行事に積極的に参加し交流が継続できるよう努めている。また、散歩や町内清掃等で地域の方と自然に挨拶を交わす等行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や小学校の交流等で認知症の方への理解を得る機会を作っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を実施し毎月の活動状況の報告を行い、困難事例等での指摘やアドバイスをいただき支援に取り入れるよう検討している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加時には互いの報告を行い意見交換を行っている。また、入居者に関しての相談・報告等必要時に行っている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修を実施し、資料配布等で身体拘束の具体的な行為を学ぶ機会を設けている。また日々のケアでも施錠等行わず常に自由に行動できる環境づくりを行うことを日ごろより意識している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に一度委員会を開催しホーム内での虐待や不適切ケアにつながることはないかを検討し改善策を考えよりよいケアにつながるよう努めている		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で学ぶ機会を設け、実際に後見人をつけている入居者もおり必要な支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去の際には時間を設け説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見ノートや意見箱の設置をしている他、行事の度にアンケートをとり検討を行っている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や個別での面談の機会を作るよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に見合った階級を新たに作り目標を明確にできるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	eラーニングを活用し個々に不足している、もしくはスキルを高めたい項目を個別に研修できる環境を作っている。また外部研修の積極的な参加を呼び掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での合同研修等で交流機会やネットワークづくりの機会を提供している他外部の勉強会やケアカフェ等の情報提供を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族との面談の中で困りごとややりたいこと等の聞き取りを行い、他事業所等からの情報提供もお願いしアセスメントしながら安心した暮らしを継続できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	数回に渡り要望等の確認を行い話し合う機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望等を踏まえながら柔軟に対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診対応や外出支援等できる範囲での協力をお願いしホーム側との連携がとれるようアドバイスや情報交換等行えるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等行きつけの場所がある場合は入居後も継続できる支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合えるよう過剰な介入は避けスタッフが補助的な役割に徹しながらお互い協力し合える場面づくりや談笑の場の提供を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを心掛けている。現在も顔を見せてくださるご家族もいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人のこれまでの生き方やこれからの希望等聞き取れるよう心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力を願いフェイスシートを作成しご本人の暮らしぶりの把握ができるよう努めており、情報を集めながら定期的にフェイスシートの更新も行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々アセスメントを行いカンファレンスで検討しご本人に合った暮らし方の検討を行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望、ご本人の状態を踏まえカンファレンスで話し合いを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践記録を個別の記録に記載している。月1回開催するモニタリングを含めたカンファレンスで状況の確認を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族対応の受診等都合がつかない場合はできる範囲でホーム対応を行ったり状況を踏まえ対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用や訪問理美容・売店等気軽に動ける環境にない方にも楽しみを持って頂く事ができている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医・ホームの協力医等本人の状況を考慮しながら相談を行っている		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回提携している病院より訪問看護を受け、都度状態の報告や相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書の提供やDr・Nsからの情報提供等できる限り状態の把握を行い早期退院につながるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針の説明を行っている。また、ご本人の状態変化に伴い都度話し合いを行うようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に急変時の対応の貼り出しを行い迅速な対応がだれでもできるようにしている。個別に起こりうる可能性のある事例等説明を行い備えるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害想定避難訓練を実施している。また緊急連絡網で地域も方にも協力を得られる体制を整えている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内に入るときには必ずノックを了承を得る、排泄時の支援もできる限りご本人の気持ちを重視し対応できるよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に選択肢を設けご本人の意思が表出しやすい環境を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースの把握に努めご本人が過ごしやすい暮らし方を常に考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの暮らし方暮らし方や考え方、感じ方を考慮し個別に支援を行っている		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時入居者と一緒に食事づくりから配膳、片づけを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたバランスの良い食事を本人に合わせた形態や量の提供を行いながら摂取しやすい工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、本人に必要な支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔に合わせたトイレ誘導を行う等、できる限りトイレでの排泄が可能となるよう対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には乳製品の摂取や軽い運動、排便体操等薬だけに頼ることのない支援を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が入りやすいタイミングを考慮したり、状況によっては入浴日をずらす等の対応を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて休息できる環境を作る等行っている。また就寝時間も個々の状態に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し変更時は都度更新している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の要望や意見を取り入れたり、散歩等個別支援を行ったり、個々の得意な場面を作ったりと日々行っている		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意思を尊重し自由に戸外へ出られる支援を行っている。町内会行事の参加によって普段とは違う場所や人との交流も良い刺激となっている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ売店ででの購入時の支払い等行う場合もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話等いつでもできる状況を作っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手過ぎず幼稚過ぎない飾り物で季節感を出し、温度や湿度の調整に気を配っている。入居者に合わせカーテンで日光を調整したり換気をこまめに行う等都度状況に合わせて対応している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し談話しやすい空間づくりを行っており、ところどころにソファや椅子を置きご本人が落ち着ける場所を確保できるよう努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に説明を行い、できるだけなじみのあるものを持ってきていただけるようお願いしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所は家庭的な空間になるよう考慮し、洗濯物も座って干すことのできるよう低いタオル掛けを用意してできることの継続につなげている		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム日吉

作成日：令和 1年 11月 30日

市町村受理日：令和 1年 12月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策として津波想定訓練は実施しているが、限られた人員の中で、複数名の車いす移動や避難場所まで階段を使用する他手段がない場所がある等入居者を誘導する現実的な方法が見つからない。	運営推進会議にて話し合いを重ね出来る限り入居者を安全な場所まで避難誘導できる策を見出す。	令和2年2月の運営推進会議にて出席者からのアドバイス等いただき職員等も含め検討を行い具体案をつめていく。 具体策が明確になった際には実際に避難訓練を実施し再検討を行う。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。